

6月の初め、組内のご住職方と関東の親鸞聖人の御旧跡を巡りました。板敷山の法難を伝える大覚寺、永く住まわれた稲田御坊西念寺、関東高田門徒が建立した専修寺、御伝鈔に登場する平太郎こと真仏坊が開基の真仏寺、親鸞聖人の孫、如信上人が開基の願入寺、歎異抄を著した唯円が開基の報仏寺の6ヶ寺を回ることができました。

どの寺でも親鸞様の息吹が伝わり、親鸞様が身近に感じられた喜びの研修でした。皆様もご縁を作って、是非、訪れてみてください。

さて、訪問した願入寺本堂の掲示物に仏様の切絵に添えられた「みんなだれかの たいせつなひと」という言葉がありました。「みんな誰かの大切な人」というが、私を本心大切に思ってくれる人はいるのか、と問うてみても確実に答えられません。逆に、私が大切に思っている人は誰かと思い巡らしてみても、どうもその時その時でコロコロと変わり、時間と共に薄らいでいる事に愕然とする思いです。

もし、自分を大切にしてくれる人がいると確信することができたり、生涯変らず大切に思う人がいたら、力強く生きる力になるのになあと思います。

親鸞様ゆかりの寺に掲げてあったこの言葉は、親鸞様の「如来の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなり」と、如来こそ私を見捨てない方であるという確信を伝えられた言葉であったかと心に刻みました。